

「2021年度上期の振り返り 並びに 今後の展望」

～ 回復基調の継続と懸念材料 ～

機械金属部会

山田 佳宏

2021年8月27日

目次

1. 会員企業の状況（事業分野・全般状況）

2. コロナ初期から現在まで

3. 関連諸指標と各事業分野の動向

3-1. ブラジル鉱工業生産

3-2. 土木建設指数

3-3. 粗鋼生産

3-4. 電力消費、石油製品

3-5. 紙パルプ、工場用設備・制御機器

3-6. 建設機械、ポンプ等

3-7. 工作機械・工具、自動車関連

4. 当面の懸念材料等

1-1. 会員企業の状況 - 事業分野

事業・製品分野	会社数
インフラ全般	2
鉄鋼	4
電力関連	1
建設機械	2
移動式クレーン	1
ポンプ	1
工作機械	1

事業・製品分野	会社数
切削工具	1
潤滑油	1
ベアリング	1
ドライブシャフト	1
紙パルプ	1
プラント・工場用 制御システム・機器	2
計15分野	延19

(注) 複数分野を有する会社は、該当分野毎に重複してカウント。

Principal会員企業47社中、今回シンポジウム用レポート提出があった17社について集計

1-2. 会員企業の状況 - 全般状況

- 部会企業の多くは、2020年後半以降、新型コロナウイルスショックから徐々に回復。
- 業種によっては、上記ショックによる落ち込みをカバーする以上の回復状況。
- 少なくとも、年内はこの状況が続くとの見方が大半。
- 一方、後記の懸念材料等もあり、先行きは不透明。

昨年のフォーラムから1年経過しており、コロナ初期以降のおさらいも含め、ご報告する。

2-1. コロナ初期(2020年3月～)

1年半前、各社は

- 新型コロナウイルスによるショックで -
- 生産、販売、メンテナンス等、あらゆる活動で大きなダメージ。(特に4月)
- 工場は継続的に稼働するも、ホームオフィスが基本。
- 一部駐在員は、日本に一時退避帰国。(日本では「夜勤」)

2-2. Withコロナ (2020年7月～)

2020年7月 機械金属部会開催時

－ 実情は業界・企業によって区々 －

- 4月の落込み度合、回復状況などは、産業・企業によって相当の温度差。
- 新型コロナ下、需要が底固い分野もある。
- 先行き不透明な中で、次のキーワード
ICT活用によるリモートアクセス、低金利・レアル安、保護貿易に向けた世界的な動き

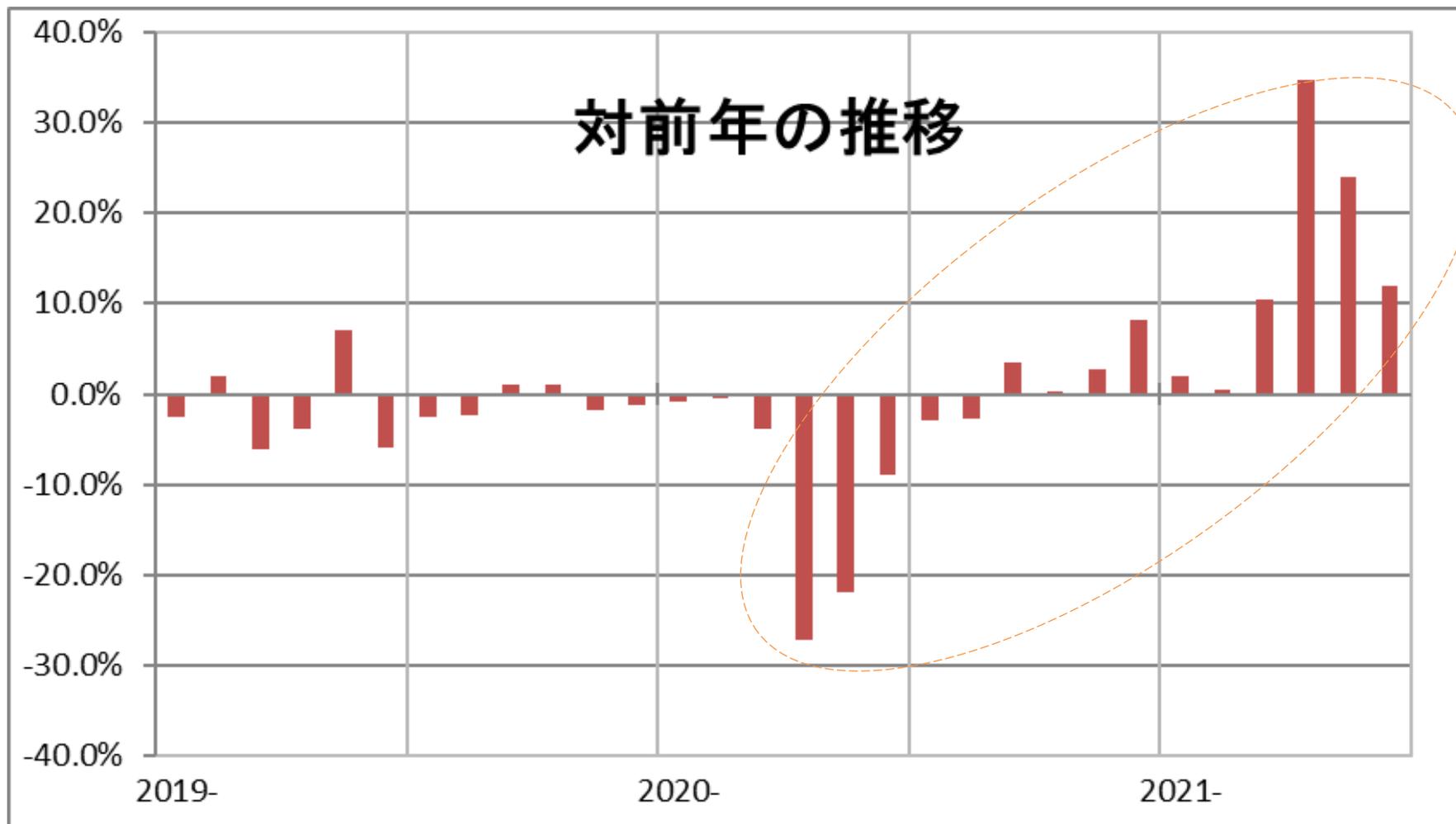
2-3. 2020年を振り返ってみると

2021年3月 機械金属部会開催時

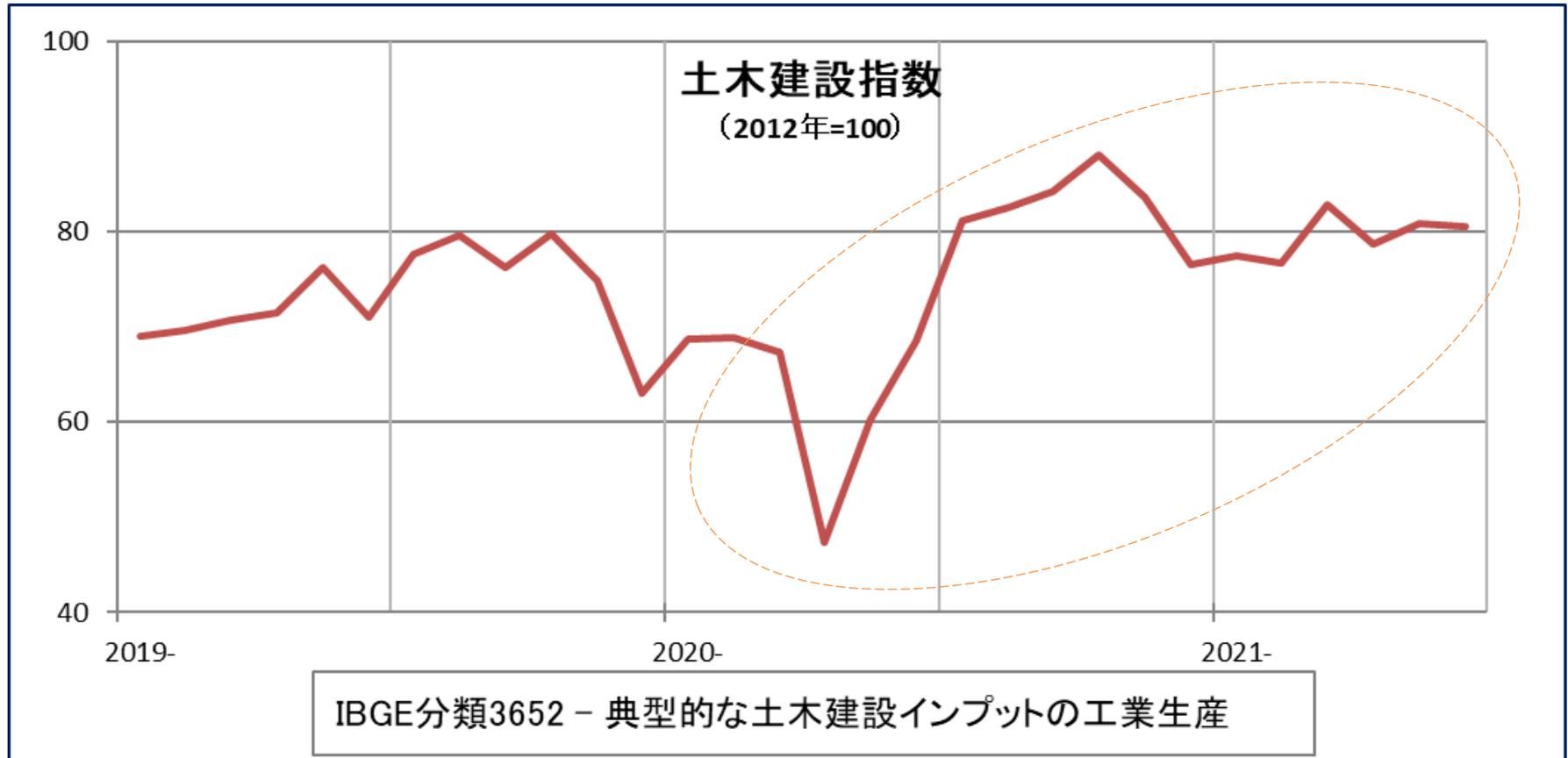
- 回復に向けた方向感 -

- 世界的な需要回復の兆し。
- 2020年後半の回復は予想以上。建機等一部業界は、通期で2019年を上回る。
- 2021年は、コロナで落ち込んだ2020年を上回りそうなムード。

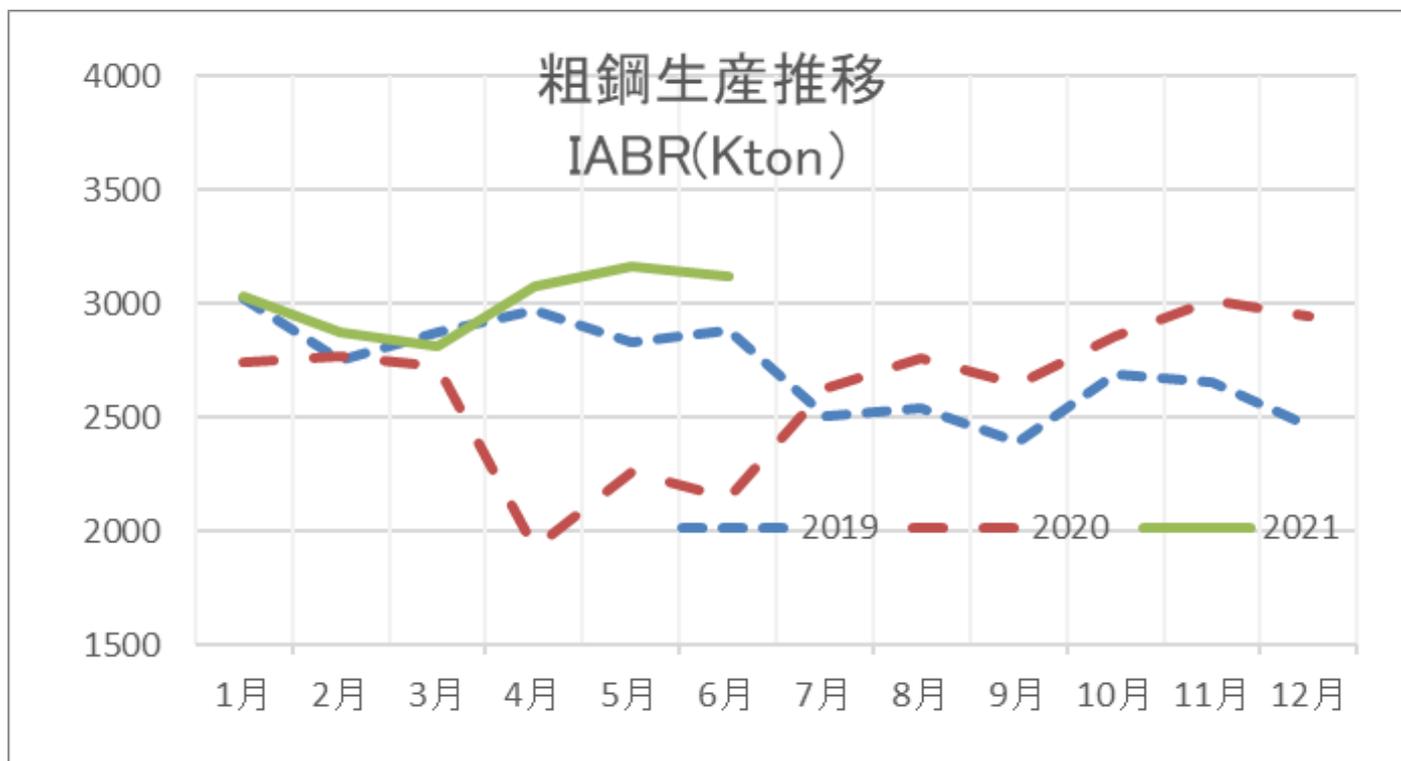
3-1. ブラジル鉱工業生産



3-2. 土木建設指数



3-3. 粗鋼生産

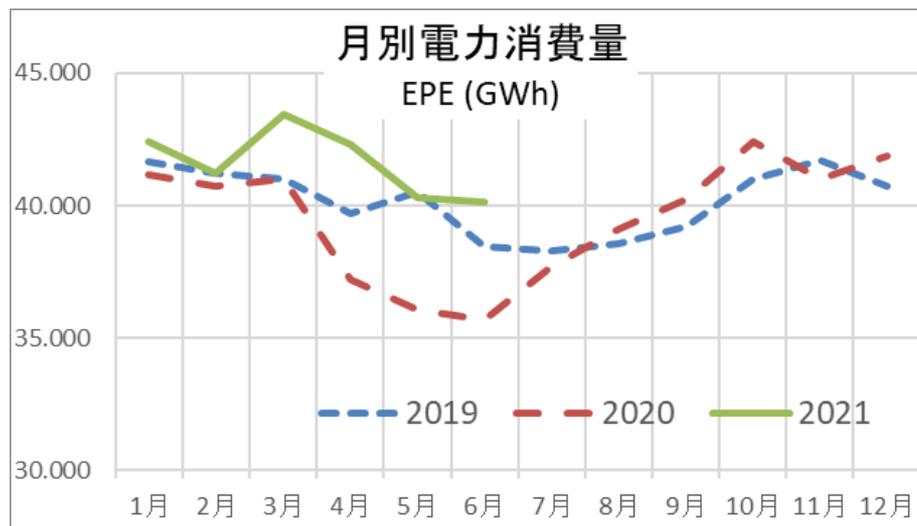


- 昨年7月以降、粗鋼生産は11か月連続で前年同月を上回る。
- 2021年5月の粗鋼生産は、5月としては過去最高。
- ブラジル鉄鋼協会は、国内需要が下期も堅調との見方から、6月に2021年見通しを上方修正。

3-4. 電力消費、石油製品

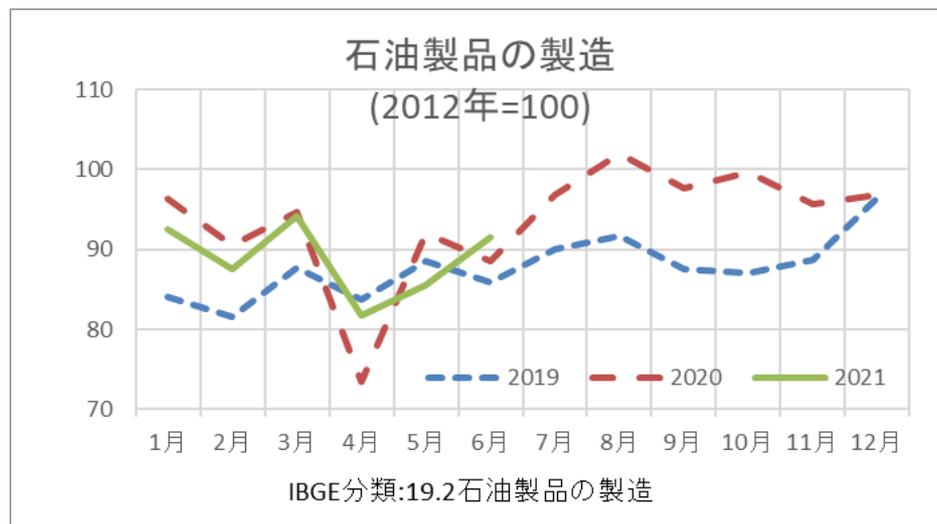
電力消費量

- 2021年上期の電力消費量は、対2020年で+7.6%
- 電力オークション再開（再生可能エネルギーが注目）



石油製品

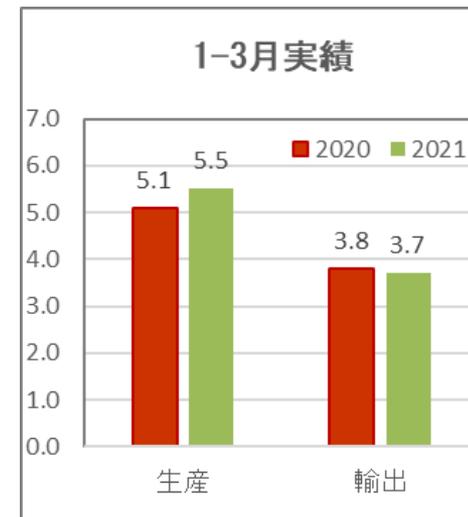
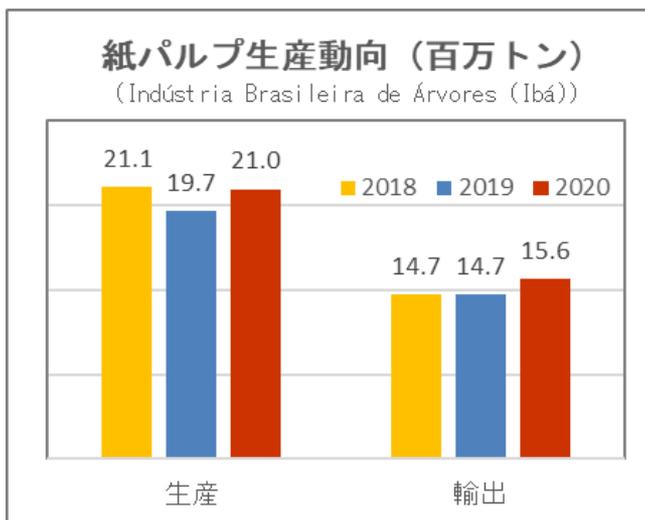
- ペトロブラスの2020年石油等生産は、2015年の記録を更新。
- 関連設備等への発注は、2021年初から回復基調



3-5. 紙パルプ、工場用設備・制御機器

紙パルプ

- 2021年1Qのパルプ生産は対前年+8%
- 紙パルプ産業は、積極的な設備投資を計画



工場用設備・制御機器

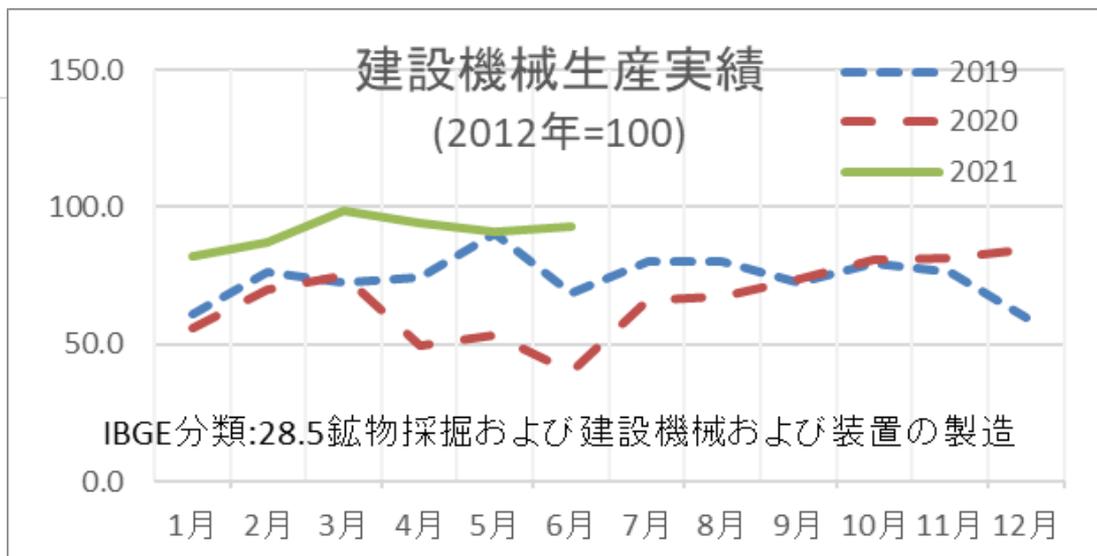
以上のとおり、製鉄・紙パ・石油ガス等は高稼働

- 輸入クレーンの総需要は、2021年1-5月で2020年の総数を達成(高稼働)
- パルプ、鉄鋼、化学向け工場向け制御等が好調

3-6. 建設機械、ポンプ等

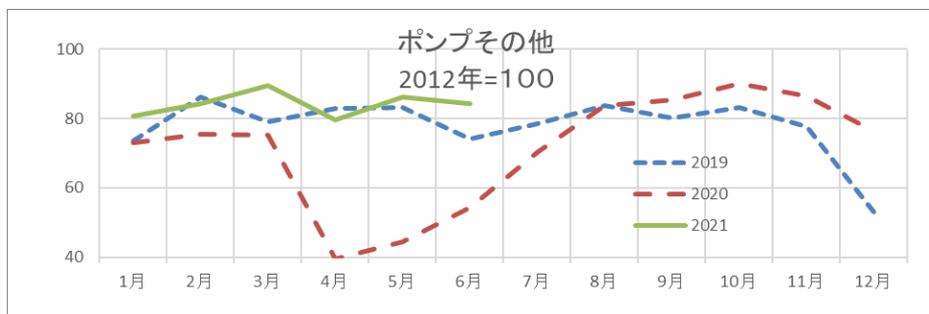
建設機械

- 建機の上期国内出荷が対前年+44% (前年落込みの反動と農業・鉱業・インフラ整備)
- 輸出も、海外市場の需要反転・増加で対前年+39%



ポンプ、エンジン、コンプレッサー等

- **ポンプ**は2020年からの旺盛な需要が継続

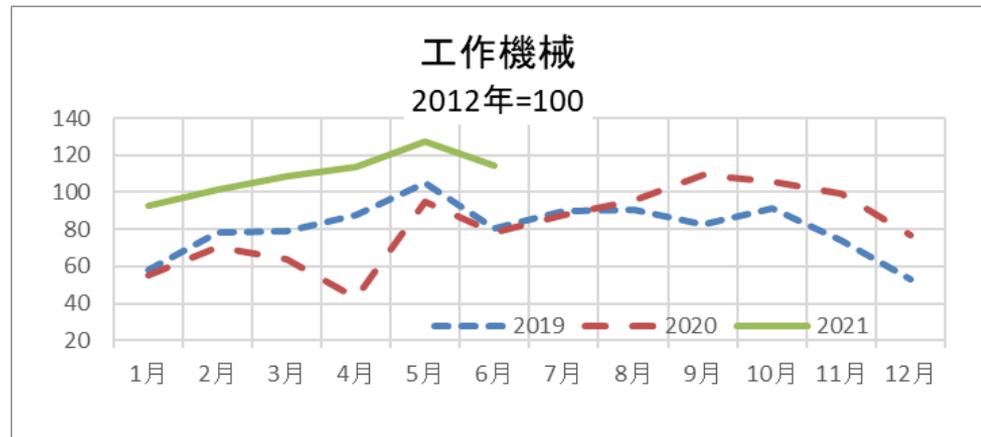


機械金属部会

3-7. 工作機械・工具、自動車関連

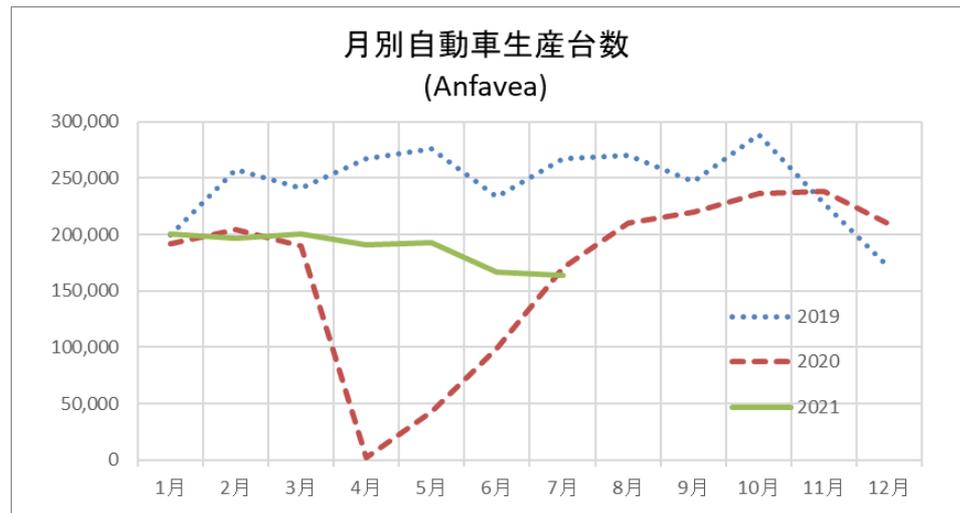
工作機械・工具

- **工作機械**：自動車、農業、一般工業品、工業分野で新規投資再開
- **工具**：メディカル、農機関連が堅調。自動車向は減産の影響で停滞。



自動車関連

- **潤滑油・ドライブシャフト**：半導体不足による自動車生産落込み分を新規案件でカバー
- **ベアリング**：自動車・一般産業向け需給が逼迫



4. 当面の懸念材料等

以上、総じて当部会企業関連の業界は回復基調にあるが、2022年大統領選や新型コロナの今後の状況といった要素に加えて…

- 機械産業等、ブラジル産業全体で生産資材の調達難・価格高騰という状況
- 多くの部品の需給が逼迫、海上・交通輸送とともに大混雑、物流コストが大幅に上昇

一方で…

- コロナ禍で製造現場・生産設備のデジタル化、リモートオペレーション、産業ロボット活用等の新規ビジネス機会も。

ご清聴ありがとうございました。

Obrigado!